



木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2025年7月13日(日) 9:30~12:00(曇り後晴)

参加者 一般:3名

指導員:3名

テーマ ウバユリは咲いたか？

暑さを避けて、日陰のコースを選んで回りました。

植物の開花時期は年によってずれることが多く、ウバユリは8月第2日曜の観察会ではこれまで花が終わりかけでした。今年は6月の気温が高かったので、7月に花を期待していましたが、花茎は伸びていたものの、まだ蕾がはっきりしない状態でした。

この日、注目したのは「カワラ」と名がつく植物です。歩き出してすぐ道路脇でカワラサイコの大きな株がたくさんの花を付けていました。カワラケツメイは、花はまだでしたが、昨年見つけた川原の通路で数株が健在でした。途中で見た同属のアレチケツメイと葉や蜜腺の形状を比較し、違いを確認しました。カワラナデシコは、昨年までは7月に花が咲いていたのですが、今回はまだ蕾でした。6月に草刈りがされた影響かと思われます。

この日、参加者の関心を引いたものはウマノスズクサでした。ここの公園内では初出現で、サキソフォンに似たおもしろい形状の花を付けていました。ちょうどジャコウアゲハの幼虫が育つ時期なので、卵や幼虫がついていないか探しましたが、小さな株だったためか確認できませんでした。

昆虫では、シンジュの木の幹や枝でこのところ急増している外来種のシタベニハゴロモが見られました。先月は黒地に白い斑点の2齢あるいは3齢の幼虫でしたが、今回は赤地に白い斑点の4齢(終齢)幼虫がほとんどで、一部成虫になった個体もありました。また、昨年見られたシンジュキノカワガの幼虫が葉の裏に付いていました。この虫もここに定着したようです。そのうち、シンジュの幹に蛹が見られることと思われます。

帰りがけに「もくぱら」の池に寄ったところ、ヨシの葉に羽化間近のクロコノマチョウの蛹と、抜け殻が付いていました。

(報告: 齋竹)



(シンジュの木でシタベニハゴロモを観察)

＜その他観察できたもの＞

鳥: ツバメ、トビ、キジバト、ヒヨドリ、ムクドリ、スズメ、エナガ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ウグイス(声)、コゲラ(声)

虫: ナミアゲハ、ナガサキアゲハ、アオスジアゲハ、モンキチョウ、キタキチョウ、ツバメシジミ、ヒメウラナミジャノメ、ツマグロヒョウモン、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ウスバキトンボ、クマゼミ(声)、ニイニゼミ(声)、チュウゴクアミガハゴロモ、ツチイナゴ、クルマバタ、ショウリョウバッタ(幼虫)、ヒガシキリギリス(声)、セイヨウミツバチ、シオヤアブ、アオメアブ

花: イワダレソウ、ヒナギキョウ、アメリカネナシカズラ、メリケンムグラ、オオフタバムグラ、セイヨウウツボグサ、ノアザミ、オオキンケイギク、ヒメジョオン、ブタナ、クズ、シロツメクサ、ヤブミョウガ、ミソハギ、コマツヨイグサ、メマツヨイグサ、ユウゲショウ、ハンゲショウ、キキョウ、ツリガネニンジン、アメリカスズメノヒエ、セイバンモロコシ



ワラサイコの花



ウマノスズクサの花



シタベニハゴロモの終齢幼虫



クロコノマチョウの蛹